

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4070702107, 株式会社エルダーサービス).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が「自分らしく」日々を楽しく過ごして頂ける様、常に入居者やご家族の思いを大切に笑顔で支援を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム折尾東は、利便性の高い住宅街の中に位置し、デイサービスセンターが併設されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64.

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付きやすい場所に掲示しており毎日のミーティングや定例会でも唱和し日々の業務の中でケアやサービスの支援に努め実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての理念を掲げ、日々のミーティングや月例の定例会で確認する機会を持っている。年度末には日々の実践状況を振り返る機会もあり、理念の具現化に向けて取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し組長の役割も果たしていたが町内会が解散したため交流が難しくなった。	自治会の役員を務めた経緯もあったが、自治会が解散したため、地域との交流についても社会的な課題に向き合っている。コロナ過でもあり、新たな交流機会の創出は難しい状況でもあるが、以前から交流のある保育園との玄関先での関わりを持つ等、地域の一員としての活動を模索している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者などの相談に対しても出来る事があれば対応するようにしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。会議の中で外部評価の結果を報告する。結果を業務に活用できるように努めている	コロナ過の為、運営推進会議は書面会議を余儀なくされている。2ヶ月に1回の定例開催を行い、書面にて関係者の意見を求める等、出来る限り意義のある開催となるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北九州市の担当とは連絡を取ったり情報交換を行っている。運営推進会議開催時には参加して頂き意見交換も行う。	運営推進会議のメンバー構成として、地域包括支援センター担当者との情報共有に努めている。コロナ過でもあり、電話やメール等にて情報共有を図り、新型コロナの感染状況やワクチン接種についても密に情報共有を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう職員で話し合い内部研修をしている。日中は玄関は施錠しないので自由に入出りできるようにしている。	運営推進会議開催にあわせ、身体拘束適正化委員会を開催している。指針の作成や研修の実施、日々の振り返りを行うことで、身体拘束をしないケアの実践に努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い虐待をしないよう話し合い防止に努めている。日頃から見逃すことが無い様に注意し防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所にて成年後見人を利用されている入居者がおり支援できる体制を整えている。	権利擁護に関する制度を活用している方もおり、関係者との連携を図っている。資料の整備や定例会の中での研修実施等を通じて、制度の理解と情報提供も含めた活用への支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は必ず文章と口頭にて説明して行っている。また質問しやすい様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置しており直接言いにくいことがあれば苦情箱へ入れて頂くように説明している。また直接意見や要望を聞く体制を作っている。	コロナ禍以前は、運営推進会議や家族会の開催、日常の訪問時に家族意見を聴取できる機会があった。現状を踏まえ、出来る限り密に連絡や報告を行い、嗜好品の摂取等、個別の反映に努めている。家族アンケートの内容からも日々の取り組みが伝わり、コロナ過後には家族会の再開を予定している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者が職員とヒヤリングを行い意見を聴く機会を設けている。その都度話し合いを行い運営に反映させている。	定例会の開催もコロナ禍の影響を受けているが、感染状況も踏まえながら、職員全員参加の機会も増えてきている。管理者は職員が意見を言いやすい環境づくりに努め、活発な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その状況に応じて勤務の調整を行い柔軟な対応を行っている。個人面談を行い皆が向上心を持って働ける環境に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は年齢・性別などで排除する事は無い。管理者は定期的にヒヤリングを行い職員の向上心や業務に対する意見や提案を聞くように努め精神的なフォローを心掛けている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。介護福祉士や看護師等、国家資格を持つ職員の比率が高いことは特徴的である。現在、30代から70代までの男女職員が勤務し、それぞれの能力や特性が発揮できるよう管理者は配慮している。コロナ手当が支給される等、職員の日々の奮闘に応えるよう努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修を行い人権に対する意識を高めている。また、日々の業務の中でも入居者様の人権に配慮したケアを行うように努めている。	権利擁護や高齢者虐待防止法、身体拘束の適正化、認知症ケア等の研修を重ね、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修などで事例検討の資料を配布し日々の業務の中で相互的に意見を学べるような職場環境に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内4事業所のグループホームと意見交換などとおして情報の交換などを行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い話を聞いて困っている事や不安なこと求めている事などにたいしてご本人が入居するまでにできる限り環境を整える様に努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談を行いご家族との関わり方やご家族の困っている事不安な事要望などを詳しく聞きご本人が安心して日々生活出来る事をお伝えし入居後も随時相談を受け付ける事をお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と話し合い最も必要としている支援やサービスを考慮した対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々暮らしの中で共に支えあい普段の何気ない会話を大切にしさりげない支援を行いお互いが「ありがとう」を言える関係が築かれている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話にて入居者様の日々の生活をお伝えしている。一緒に支えていく関係が築かれている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの場所や関係が途切れない様にご家族と話し合い支援をしている。	コロナ禍以前に取り組んでいた家族会開催や法事等への参加支援が難しい状況にある。電話やテレビ通話、感染状況に応じた面会等を通じて、家族や旧知の方との関係性継続に向けた支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味を把握し皆様に楽しめるようなレクリエーションをおこない利用者同士が関わり合えるような支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の家族へ管理者より連絡を取り現在の様子を伺ったりご家族からの相談はニーズに応じた関係機関を商会したりご本人ご家族が満足したサービスが提供出来る様に努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意思を職員で共有する運営日誌により情報の共有を図っている。入居者との会話を大事にし会話の中から本人の思いや意思を聞き取りアセスメントを行いケアやサービスの提供を行っている。	入居時のアセスメントやミーティングシートを活用による情報共有、カンファレンス等を通じて、個別の思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、行動や仕草、表情の変化等から推し測り、本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日々の会話の中やご家族からの情報により生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりが自分らしくすごしていける様心身の状況を理解し日々の変化等職員間での伝達をし現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族からの話を聞き関係性とカンファレンスを行い介護支援専門員が介護計画を作成している。	各担当者及び計画作成担当者により毎月のモニタリングが実施され、短期目標にあわせた再アセスメントも実施されている。役割づくりや出来る事への関わりを大切に捉え、個別性ある介護計画の作成に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に記録し日々の様子や心身の状況のケアの実践などが記載されている。また気づきや工夫などは申し送り時に話し合い職員間での共有の情報に努め介護計画の見直しにも活用する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスを併設しカラオケやマツツサージ機を利用することが出来る法人内に訪問介護・介護支援センター等があり本人やご家族に応じた支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流が出来る時は行う。近隣保育園との交流も続ける。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の同意を得て協力医に1ヶ月に2回の往診または受診を行っている。健康状態に問題が生じた場合は早急に受診を行い対応している。受診結果はご家族へ報告している。	コロナ禍以前は、道路向かいに位置する協力医療機関への受診が主であったが、現状は感染拡大防止の為、往診の機会も増えている。看護職員が配置され、日々の健康管理はもとより、適切な医療が受けられるよう医師との連絡調整が行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と連携を取り入居者の日々の状態を相談し日常の健康管理を支援している。また、看護計画を把握し入居者の状態の変化があった場合はすぐに報告し指示を仰ぐ様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行き入居者様が安心して過ごせるよう支援している。また、病院の看護師ソーシャルワーカーと連携し状況把握に努める。退院に向けてのカンファレンスにはご家族と一緒に参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重症化してきた場合かかりつけ医、ご家族と話し合い状況を把握し事業所にて出来る事できない事を見極め職員全員で支援するよう取り組んでいる。	入居時より、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての方針や体制を伝え、意向を確認している。近接する協力医療機関との密な連携体制が築かれており、状況の変化に応じて、医師や家族、職員との話し合いを重ね、看取りの支援も行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い昼夜を問わず入居者が安全に避難出来るよう訓練を行っている。緊急通報装置・スプリンクラーの設備もある	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、利用者の方々も参加機会がある。各種災害対応マニュアルを整備し、研修ではDVDを用いて地震のリスクについてシミュレーションを行い、意識を高めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を付け人生の先輩である入居者様に対して常に尊敬の気持ちをプライバシーにも配慮した言葉かけや笑顔で優しく対応するよう心掛けている。	接遇マナーや高齢者虐待防止、認知症高齢者の理解等の研修を重ね、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について意識を高めている。個人の居場所の確保や時間の流れを大切に捉え、画一的ではない個別対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定・自己選択が行えるよう声掛けし自分の意志が表現できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが一人ひとりのペースを大切にその日の状況に合わせて入居者の希望を尊重し日々穏やかに楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容が来訪しカットやパーマを行っている。日々の身だしなみにも気を付けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを献立に活かしたり盛り付けにも工夫をしている。季節ごとのイベントの日にも手作りの料理を楽しんでいる。	肉や魚等の食材は地域の業者を利用し、隣接する同法人事業所との連携を活かしながら、手作り料理を提供している。嗜好の反映や視覚からも食事を楽しむための工夫、季節行事に応じた特別食の提供等、細やかな視点から食事を楽しむための工夫がなされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に一人一人の食事摂取量を記入し職員全員が把握している摂取量が少ない入居者さんへの工夫にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。また、必要な方は1週間に1回訪問歯科を受けている。医師より助言や指導もある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートに記入し個々のパターンを把握し時間ごとのトイレ誘導等行い気持ちよく排泄出来るように支援している。	個別の機能や排泄状況の把握に努め、日中はトイレでの排泄を基本として、必要時には職員2名での介助が行われている。水分量の確保やヨーグルト・バナナ等の摂取、適度な運動等を通じて、便秘予防にも努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に1日の水分量等を記入し水分強化や食事も工夫している。適度な運動も心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3~4回の入浴を基本としている。また、本人が希望すれば柔軟な対応を行っている。	隔日での入浴を基本としているが、日常的に入浴を準備しているため、希望や体調、状況に応じて柔軟な入浴支援に努めている。浴室で歌を歌ったり、季節湯を取り入れる等、入浴を楽しむための工夫がなされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息や入眠が出来るよう室温ちょうすいや換気等に配慮している。また適度な運動も行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書をファイルし薬の副作用についても伝達し定例会などで学んでいる。処方に変更した時は運営日報に記入し症状の変化の確認も行う。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中では、洗濯たみ等無理の無い様に参加されている。入居者様の生活歴を活かした支援を行いカラオケ等でも気分転換を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブへ出かけている。季節感を感じられるよう工夫した場所選びを行う。本人の馴染みの場所などを選ぶ。	新型コロナ感染拡大防止の為、外出の機会は減少しているが、感染状況を検討しながら、季節や行事にあわせたドライブに出かけている。少しでも外気にふれられるよう、広い敷地内の日光浴や散歩に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方がいれば自分で管理して頂きお買い物の支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられる方はホームの電話を利用している。タブレットによるライン面会を行い遠方のご家族とも顔を見てお話をされる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると開放的なリビング空間があり対面キッチンにて落ち着いた雰囲気になっている。リビングにはそは一もあり季節ごとの飾りもあり入居者が心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の方々と職員の共同制作である季節ごとの飾りつけは、職員のアイデアや工夫とともに、日々の暮らしぶりが伝わる温かい雰囲気がある。食卓やソファ等、その時々に応じたつるぎの居場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファもありゆっくりと過ごせる場所作りに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し使い慣れた物を使用して頂き好みの物を飾られたり居心地のいいように工夫している	居室には、テレビやタンス、介護ベット等が持ち込まれ、動線の確保にも配慮しながら、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はしていたが自立した生活が送れるように物の配置などに気を配り安全に努めている。		